

平成29年度 第3回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

- 1 開催日時 平成29年12月1日(水) 13時30分～15時30分
- 2 開催場所 中部森林管理局 局長応接室
- 3 検討内容 (1) 国有林材供給調整対策について
(2) 情報交換等
(3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・ 岐阜県では長雨で出材が少なく、新鮮材だけ価格が上がった。天候の要因が大きかったが、驚くほどの価格の変動はなかった。供給調整の必要はない。
- ・ 長野県の北信についてはカラマツの入荷が少なかったことから価格が上がった。合板の価格が若干上がったのも要因。中南信のヒノキの価格の逸脱も一時的なものであり、供給調整の必要はない。
- ・ 木曽ブロックの人工林ヒノキについては夏場に生産が順調だったが、材の傷みが多く、それが大量に出材されて弱含みだったが、そのあと新鮮材がでてきて価格は戻った。特に供給調整の必要はない。
- ・ 人工林スギについては害虫によるせん孔が歩留まりを圧迫した。10月は出材が多かったが、11月は出材が悪い状況。価格はそれなりに推移している。もう少しA材の供給が欲しい。
- ・ 木材自給率は伸びているが、製材用材の自給率は下降しているのには注意を要する。
- ・ 並材の取扱いに関しては、安定供給のできない小規模製材工場は厳しい状況にある。農山村の活性化のためにも、小規模製材工場への支援が必要である。
- ・ 最近では物流費が上がったため製材費が圧迫されている。
- ・ 林業従事者は、現在、若い人は増えてきているが、熟練者が少なくなっている。林業は労働災害の多い職業でもあることから、もっと研修制度等の充実をお願いしたい。
- ・ 広葉樹の資源についても、需要があることから、施業体系の確立や安定供給体制の構築が必要。
- ・ 森林環境税の導入は早い時期にお願いしたい。